

Title	Dysregulated expression of the IL-2 receptor β chain abrogates development of NK cells and Thy-1+ dendritic epidermal cells in transgenic mice
Author(s)	諏訪, 寛
Citation	
Issue Date	
oaire:version	
URL	https://hdl.handle.net/11094/41023
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed 大阪大学の博士論文について ご参照ください 。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏 名	諏 訪 寛 ^{ひろし}
博士の専攻分野の名称	博 士 (医 学)
学 位 記 番 号	第 1 3 3 7 6 号
学 位 授 与 年 月 日	平 成 9 年 8 月 4 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学 位 論 文 名	Dysregulated expression of the IL-2 receptor β chain abrogates development of NK cells and Thy-1 ⁺ dendritic epidermal cells in transgenic mice (インターロイキン 2 受容体 β 鎖異常発現トランスジェニックマウスにおける NK 細胞および Thy-1 ⁺ 樹状表皮細胞の発生欠損)
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 宮 坂 昌 之 (副査) 教 授 平 野 俊 夫 教 授 菊 谷 仁

論 文 内 容 の 要 旨

[目 的]

IL-2 は T 細胞, B 細胞や NK 細胞の分化・増殖の制御を通じて免疫応答の調節に重要な役割をはたす。IL-2 シグナルを細胞内に伝達する特異的受容体 (IL-2R) は 3 種のサブユニット (IL-2R α , IL-2R β , IL-2R γ) から構成され, IL-2R β と IL-2R γ がシグナル伝達に必須である。中でも IL-2R γ は造血系細胞に広く分布し, 数種のサイトカインレセプターの共通なサブユニットとして存在し, この分子の欠損は伴性重症免疫不全症をもたらす。一方 IL-2R α と IL-2R β は IL-2 に特異的な受容体サブユニットである。IL-2R β は特異抗体の投与によって NK 細胞と Thy-1⁺ 樹状表皮細胞 (Thy-1⁺dEC) の選択的な消失が認められることから, これらのリンパ球の発生に重要な役割を果たすことが示唆されていた。そこで私は IL-2R β の機能をさらに明らかにすることを目的として IL-2R β を過剰発現するトランスジェニックマウス (TG) の作製を試みた。

[方法ならびに成績]

トリ β アクチン・プロモーター, サイトメガロウイルス IE エンハンサーの下流にマウス IL-2R α または IL-2R β の cDNA を挿入して導入遺伝子を作製し, 常法に従いマウス C57BL/6 の受精卵前核に注入し TG を作製した。導入遺伝子の有無を PCR 法により, 導入遺伝子の量を southern blot 法により, また導入遺伝子の発現を flow cytometry で検索した。その結果 IL-2R α , IL-2R β を単独で発現するマウスが得られた。このうち β 鎖を過剰発現するマウスの検索を行った。その結果 TG では一頭当たり約 10 個の遺伝子の導入が認められ, 各組織での導入遺伝子の発現は用いたプロモーターの発現特異性とよく一致し, 調べた全ての組織でその発現が確認された。さらに胸腺, 脾臓および骨髓のほぼ全ての細胞表面で IL-2R β の発現が認められた。

脾細胞および胸腺細胞を種々の濃度の IL-2 とともに培養し, ³H-TdR の取り込みを指標に IL-2 反応性を検索した。正常マウス細胞に比べて TG 由来リンパ球は明らかに IL-2 に対する反応性が亢進しており, この反応は抗 IL-2R β 抗体により阻害され, 導入した IL-2R β が内因性の IL-2R γ と共同して生体内で機能的 IL-2R を再構築することが示された。

TG の胸腺および脾臓におけるリンパ球サブセットを検索したところ、正常マウスと比べて明らかな変化は認められず、また TG の胸腺、脾臓ともに細胞数は正常マウスと比較して変化していなかったが、ナイロン非付着性脾細胞を用いて NK 活性を解析したところ、細胞障害活性が認められなかった。そこで flow cytometry 解析を行ったところ、TG 脾細胞中には NK1.1⁺IL-2R β ⁺ の NK 細胞が欠損していた。また TG では脾臓と同様に末梢血、リンパ節、肝リンパ球にも典型的な NK 細胞の存在は認められなかった。次にマウス耳朶表皮中の Thy-1⁺dEC を検索した。その結果、TG の表皮中に Thy-1⁺dEC の存在が認められなかった。しかし Ia⁺Langerhans 細胞は正常に存在していた。さらに血清中の免疫グロブリン量を定量したところ IgA、IgE が正常マウスに比べて有意に上昇していた。

以上のように IL-2R β TG では、抗体投与によって IL-2R β の機能阻害をした時とほぼ同一の表現型が認められた。なぜ単一のレセプターサブユニットの過剰発現がその機能阻害と同一の細胞系譜特異的な欠損を引き起こすのかに対して現在次のような作業仮説を立てている。1) 生理的条件下では厳密に制御された IL-2R β の発現プログラムがアクチンプロモーターに支配された導入遺伝子により破壊され、発生早期から NK および Thy-1⁺dEC の前駆細胞が IL-2 シグナルを受け取ることによる分化阻害された可能性。2) 過剰に発現した IL-2R によるリガンドの消費の可能性。導入遺伝子によりすべての造血細胞に発現した過剰の IL-2R が、NK 細胞および Thy-1⁺dEC の発生に必須のリガンドを消費したために、これらの細胞が消失した可能性である。

[総括]

生体内で IL-2 のシグナルを選択的に増幅することを目的として IL-2R β TG を作成した。IL-2R β TG では導入した IL-2R β は他のサブユニットとともに機能的 IL-2R を再構築したが、胸腺および脾臓におけるリンパ球サブセット、細胞数ともに正常マウスと比べて明らかな変化は認められなかった。しかし NK 細胞、および Thy-1⁺dEC の選択的消失を認めた。

論文審査の結果の要旨

本論文では in vitro で T 細胞、B 細胞および NK 細胞の分化・増殖に影響を与えるサイトカインである IL-2 の生体内機能の解明を目的に、その特異的受容体 (IL-2R) の構成成分でシグナル伝達に必須な IL-2R β を過剰発現するトランスジェニックマウスを作成し、解析を行った。その結果、他のリンパ球及び免疫反応には影響は認められなかったものの、NK 細胞と Thy-1⁺ 樹状表皮細胞の選択的な消失を認めた。

これは正常マウスに IL-2R β の特異抗体を投与し機能阻害を行った場合と同じ表現形質である。本研究の特筆すべき点は、IL-2R β がこれら 2 種類の細胞の発生に強く関わることを見いだしたこと、また単一分子の機能亢進と欠損が同一の表現型を示すことを見いだしたことである。さらに、これまで用いられていたようなヒトの遺伝子ではなく、マウス由来の cDNA を用いたことによって、生体の固有のリガンドが過剰発現受容体に結合できるようにしたことがユニークな点である。本論文は IL-2 シグナル伝達系における生体内での生理機能を解析する為に重要なモデルを作成した点でも評価され、学位の授与に値するものと認める。